

講演「中国におけるGAP取組の現状と課題」

〔パワーポイントによる説明。以下、画面ごとにP〕と表記〕

武田（司会） 続きまして、「中国におけるGAP取組の現状と課題」ということで、九州大学農学研究院の陳さんから御講演をいただきたいと思います。

それでは、よろしく願いいたします。

陳（九州大学農学研究院） ただいま御紹介いただきました、九州大学のJSPS外国人特別研究員の陳と申します。よろしく願いします。

本日与えられた課題は「中国におけるGAP取組の現状と課題」ということです。

P) 報告の枠組みはごらんのとおりでございます。

P) まず導入経緯ですが、2004年にChinaGAP基準の作成が始まって、2005年12月に国家基準として公布されました。翌2006年1月に良好農業規範認証の実施規則が公布されて、同年5月に認証が始まりました。そして2006年6月にChinaGAPの第1号の認証書が発行されました。GLOBALGAPの2007年3月の更新につれて、ChinaGAPも2007年8月にこの良好農業規範認証の実施規則を更新して、新たな実施規則を公布しました。ちなみに、中国では、GAPというのは「良好農業規範」と言われています。

P) 認証の枠組みは表2に示しています。ごらんのとおり、認証の際は各ベースと認証対象基準を組み合わせて使用することになっています。例えば豚の場合、農場ベース、畜産ベース及び豚の認証基準を審査していなければなりません。

P) 認証方式ですけれども、中国語で言うと農業生産経営者と農業生産経営者組織という種類があるのですが、JGAPの言葉で言うと個別審査と団体審査ということです。

P) 認証レベルですが、一級認証と二級認証があります。一級認証の場合は専らGLOBALGAPとの同等性認証を目指して設けたものであって、二級認証の場合は中国国内でのGAP普及のために一級認証より1ランク下のものがございます。

P) 管理点ですが、必須項目、重要項目、努力項目と分かれています。必須項目の場合は主に食品安全に基づく要件であって、重要項目は環境保全、農業生産者福祉、動物福祉の基本要件です。また、努力項目は、必須項目と重要項目の持続改善措置に関する要件です。

P) 管理点は表3のとおりでございます。

P) 認証対象ですが、これは表4の認証枠組みからもわかるとおり、中国のGAPでは、畜産、作物、水産、幅広くカバーしています。

P) 認証マークですが、認証レベル、一級認証と二級認証に応じてマークも2種類用意しています。一級認証マークと二級認証マークの違いは、「GAP」という文字の右上に「+」がついているかどうかということです。また、このマークの使用は基本的にはB2Bに限定されています。しかし、茶及び、認定書において農産物処理がカバーされている果物と野菜については小売商品の包装に認証マークを使用することができます。

P) チェックリストですけれども、CACNという国家の機関が公布している書類の中では、このチェックリストの中身、例えば管理点なりレベルなり、内容を埋めていません。実際の認証に当

たって各認証機関が独自のチェックリストをもって審査することになっております。ちなみに、こちらのレベルですが、それはChina GAPの技術規範における管理点のレベルを指しています。つまり、必須項目、重要項目、努力項目が含まれています。

P) 認証プロセスはGLOBAL GAPの前のバージョンの内容と全く同じです。

P) 認証費用ですけれども、認証対象、つまり企業の経営規模にもよりますが、現在、中国の場合、おおよそ2～3万円、今の為替レートですと約30～40万円になっています。中国品質認証センターという認証機関、CQCを例にして見ますと、China GAPの認証費用は以下の4項目から構成されています。つまり、申請費用、審査費用、認証登録費用、マーク使用費用です。

P) China GAPの認証の現状ですけれども、そもそも認証が始まったのは2006年の5月です。その段階で、試験的な認証として、主に輸出農業のモデル地区として指定されている山東省や福建省、陝西省、黒龍江省などの18の省と、直轄市の食品輸出企業の原料生産企業と農業標準化示範区に位置する企業、計286企業を対象に開始しました。2007年11月現在、China GAPの第三者認証団体が15社認可され、China GAPの審査員が400名ほど養成されています。また、2008年1月現在、China GAP認証を取得した企業は222数えられています。ちなみに、2007年12月までに中国においてGLOBAL GAPを認証取得した企業は271です。

P) 中国各地のChina GAPの実態は表6に示しています。ごらんのとおり、中国においては、国からのChina GAPを実施する交付金というものはございません。しかし、各地域、地方政府から何らかの形で補助があります。例えば実地調査した北京市においては、一級認証を取得した場合、認証費用全額を政府が負担することになっています。また、二級認証の場合は70%を政府が負担しています。あと、陝西省の場合 - 陝西省というと、皆さん御存じかと思いますが、西安の方で兵馬俑のあるところですが、そちらでは財政力がそれほど強くなく、しかし、リンゴのヨーロッパ輸出がすごい大きな産業であって、そういう背景もあって、陝西省においても、2007年までに認証取得企業に認証費用全額を補助することになっています。

P) 次に事例紹介ですけれども、ことし、2008年1月末、2月初めごろにかけて、我々は有限会社北京市小湯山現代農業科学技術モデル園を調査しました。

P) これは看板です。

P) 場所的に言うと、ごらんのとおり北京の近郊です。

P) 北京の中でも、真ん中の右下が北京市の中心部ですが、そのあたりに天安門広場とかがあって、右上にちょっと行くと北京国際空港、飛行機のマークがついているところです。調査したのは小湯山、北京市の真ん中の真上ですね。道路の状況にもよりますが、北京市の中心部から車で約2時間のところでございます。

P) この農業科学技術モデル園ですが、98年に設立されて、01年に北京市唯一の国家レベルの農業科学技術園として国に認定されています。また、北京オリンピックのサプライヤーにも認定されて、総面積は111.6平方キロメートルにもわたっています。その中に現在46の企業が立地しています。

China GAP 認証を取得したのは、46 企業の中の 1 つで、有限会社北京市小湯山現代農業科技モデル園です。その経営面積は 87 ヘクタールに上っています。実際に認証を取得したのは 2007 年 7 月で、認証対象は青果物です。うち野菜が 20 ~ 30 品目で、果物は 10 品目です。また、この会社は有機農産物認証も取得しています。

販売先ですが、この会社は主に高所得者層向けのデパートやスーパーに直売しております。また、この会社においては輸出しておりません。

P) こちらは実際に調査に行った農園の配置図です。結構広いので、東区と西区に分けていますが、こちらは西区の地図です。

P) これはハウスの外観です。季節もありますので、露地栽培の野菜は見ることはできませんでした。

P) ハウスイチゴ。

P) 作業日誌ですが、この作業日誌には、毎日の天気、気温、作業の内容を記録しています。

P) もう 1 つハウスです。

P) これが栽培履歴ですが、当日何をしたか、翌日何をするかということが書いてあります。

P) ハウスの入り口の一角に作業服や農薬をまく道具などが整理整頓されています。

P) 実際、生産側を見た後、スーパーにも見に行きました。

P) しかし、スーパーにおいては有機農産物とか緑黄色食品、無公害食品の農産物が置いてありましたが、GAP の認証を取得していた農産物、そのマークを張ってあるものは見当たりませんでした。

P) 最後に課題ですが、生産者側から見ると、まず認証費用が高いですね。補助金なしでは、たとえ大きい規模の農業生産法人であっても負担が大きくて、GAP の普及は難しいと思います。

あと、御存じかと思いますが、日本の農業でよく言われている零細・分散ですが、実は中国の場合は一戸当たりの経営規模は日本の 3 分の 1 しかありません。ですので、もっと零細です。また、それも分散しています。こうした農家には、GAP を普及する場合、技術上難しいです。もう 1 つ、今、中国の農家も高齢化しています。また、読み書きできない人もたくさんいます。それも技術面で難しいと思います。そういう意味では先ほどのガーナの事例は結構参考になるかと思います。

あと、流通・消費の面においても、まだ市場には認知度が非常に低くて、市場からの GAP 認証の需要が少ないです。それに影響されて、自主的に China GAP 認証を取ろうとする企業も少ないです。

最後ですが、GLOBAL GAP の同等性認証です。最初、China GAP が立ち上がった時点では GLOBAL GAP との同等性認証を目指していました。しかし、中国にとっては EU の農産物市場は日本に次ぎ第 2 位の大きい市場であって、こういう背景もあるものですから、同

等性認証の際、厳しくチェックされると思います。また、China GAPの内容から見るのも同等性認証に時間がかかるものです。つまり、China GAPは、青果物のみではなく、穀物と畜産、水産もカバーしていますから、それだけでももうちょっと時間がかかるはずです。

以上です。ありがとうございました。(拍手)

武田(司会) ありがとうございました。

日本は世界では大きな農産物の輸入国ということになりますけれども、その中でも中国という大きな輸入元の国が1つある。そこで今、GAPという道具が、これは国主導だということですが、進められているということですね。

陳様、ありがとうございました。